

## 夏休み特別企画展 「戦後77年ポスターでみる戦争映画～平和を求めて～展」

今年の映画ポスター展のテーマは戦争映画です。戦後、映画が娯楽の中心だった頃から「戦争」をテーマにした劇映画が多数制作され、その多くが反戦テーマや人間ドラマですが、娯楽映画として制作された作品も相当数あり、映画のジャンルになりました。今回は、第二次世界大戦をテーマにした映画ポスター190点を中心にプレスシート・映画関連雑誌・パンフレット・チラシなどと共に「軍都豊橋」「豊橋軍事史叢話」「戦火のラブレター」「豊橋市戦後復興誌」「最後の女学生」など地域資料や戦時中新聞復刻版や世相反映書籍などを多数展示します。

日時 ● 8月5日(金)～8月14日(日)  
午前9時～午後5時  
場所 ● 豊橋市民文化会館2階展示室  
入場料 ● 無料



[ギャラリートーク]

日時:8月7日(日)・13日(土) いずれも14時～  
講師:佐々木順一郎氏  
[とよはしまちなかスロウタウン映画祭実行委員会会長]  
事前予約不要・参加無料  
※ただし、会場が密になる場合は入場を制限します。  
▶問合せ/豊橋市民文化会館(Tel.0532-61-5111)

## 伝統文化こども教室2022を開催します。

今年も加盟文化団体の先生方のご協力を得て、夏休み伝統文化こども教室を開催いたします。お申込み方法など詳細は、チラシまたはホームページをご確認ください。

- ① 日本舞踊の部(全6回)  
日時 ● 8月2日(火)～4日(木)  
23日(火)～25日(木)  
時間 ● 10:00～12:00  
講師 ● 満帆会
- ② 三味線の部(全6回)  
日時 ● 8月1日(月)～3日(水)  
22日(月)～24日(水)  
時間 ● 13:30～15:00  
講師 ● 唄・三味線 音弥
- ③ 剣詩舞の部(全6回)  
日時 ● 7月28日(木)・8月1日(月)・  
9日(火)・18日(木)・  
26日(金)・29日(月)  
時間 ● 10:00～12:00  
講師 ● 日本社心流(入倉昭星、  
入倉壮星、入倉昭山)
- ④ 箏曲の部(全6回)  
日時 ● 8月5日(金)・6日(土)・  
8月19日(金)・20日(土)・  
8月26日(金)・27日(土)  
時間 ● 午前の部(初心者)  
▶ 10:00～12:00  
午後の部(経験者)  
▶ 13:30～15:30  
講師 ● 住吉如子(紫雨会)
- ⑤ 工作の部(全4回)  
日時 ● 7月26日(火)～29日(金)  
時間 ● 10:00～12:00  
講師 ● 豊橋竹とんぼ会
- ⑥ 華道の部(全2回)  
日時 ● 8月3日(水)・10日(水)  
時間 ● 午前の部  
▶ 10:00～12:00  
午後の部  
▶ 13:00～15:00  
講師 ● 豊橋華道連盟
- ⑦ 茶道の部(裏千家)(全1回)  
日時 ● 7月22日(金)  
時間 ● 午前の部  
▶ 9:30～12:00  
午後の部  
▶ 13:00～15:30  
講師 ● 廣田宗桂(裏千家)
- ⑧ 茶道の部(表千家)(全2回)  
日時 ● 8月2日(火)・9日(火)  
時間 ● 午前の部  
▶ 10:00～12:00  
午後の部  
▶ 13:00～15:00  
講師 ● 熊谷宗光(表千家)
- ⑨ 親子でゆかたを着てみよう(全1回)  
日時 ● 7月30日(土)  
時間 ● 午前の部  
▶ 10:00～12:00  
午後の部  
▶ 13:30～15:30  
講師 ● (一社)装賀きもの学院  
藤城恵子



## 伝統文化こども発表会の参加団体を募集します。

伝統文化こども教室を開催します。舞踊、三味線、箏曲などを習っているこどもの皆様、文化会館の舞台上で発表してみませんか?

日時 ● 令和4年9月25日(日) 12時30分～(予定) 対象 ● 概ね高校生以下で構成される邦楽関係団体またはグループ  
場所 ● 豊橋市民文化会館ホール  
発表時間 ● 1団体30分以内 応募方法 ● FAXまたは郵送にてお申込みください。(参加申込書はPLAT、文化会館にて配布)  
※参加希望団体数によっては調整します。

## 令和4年度愛知県文化協会連合会東三河部芸能大会を実施します。

今年度は田原文化会館にて開催されます。豊橋からは伊藤民謡会さんが出演していただきます。

日時 ● 7月10日(日) 12時30分開演(11時30分開場) 場所 ● 田原文化会館 文化ホール  
入場料 ● 無料  
演目(抜粋) ● 伊藤民謡会「木曾節」「紀の川舟唄」「岡崎五万石」「設楽馬子唄」「三階節」「渥美地方の子守歌」  
※14:45頃からの出演予定となります。

## 市民茶会・いけばな展を開催しました。

今年の「春の市民茶会」は、松尾流と表千家不白流の2流派で、会場を豊橋市民文化会館内のリハールサル室(1階)と第5会議室(2階)に限定して、4月24日10時からのスタートとなりました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、予約制を導入し十分な換気とソーシャルディスタンスを保つなど厳しい条件下での開催となりましたが、3年ぶりということもあり静寂な中にも268名の参加者の顔には、満足そうな笑顔がみられました。

また、真生流・天生流・日本生花司松月堂古流・嵯峨御流・日本華道松月・池坊・花芸安達流・小原流・南宗流の各9流派を一堂に会し、4月23日から24日にかけて豊橋市民文化会館展示室(2階)で開催した「令和4年度豊橋総合いけばな展」も944名の観覧者を集め、好評のうちに終了しました。



## 第51回長唄演奏会を開催しました。

5月8日(日)に第51回長唄演奏会が開催されました。令和2年に第50回記念として盛大に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止・規模縮小と続き、今回満を持しての開催となりました。長唄を代表する傑作の一つ「元禄花見踊」では、豊橋長唄協会3社中、囃子連中合わせて37名が出演し、曲と同様、舞台も華やか賑やかでお客さんも長唄の魅力を感じました。



しあ  
紫綾  
まりあじさい  
「鞠紫陽花」

ヴィファール(紙)、アクリル・水彩

今号の  
一枚

東京や大阪の展示会を中心に活動しています。

アクリルや水彩絵具を併用して、大好きな植物をモチーフに描いています。

紫陽花とフリルをテーマに初めて主催する展覧会「フリルをかざって六月に」をアートエジギャラリーにて6月19日まで開催しています。

## VOL.3 気まぐれ プチ旅 中之島美術館と郷愁ランチ 斧路朱音

2022年の幕開け早々、1月31日の月曜日…新装なった『大阪中之島美術館』の内覧会に出席することになったが、新型コロナウイルス蔓延により出張は延期…ようやく訪れることができたのは、3月半ばを過ぎてからだった。

中之島を歩きながら、遠い昔に学生時代のバンド仲間と煉瓦造りの『大阪市中央公会堂』(現在:重要文化財)に出演して、ハードロックを演奏したことを懐かし思い出していた。その時とは景色が随分様変わりして、なんだか浦島太郎になった気分。

構想から40年が経過し、満を持しての開館!関西の美術ファンが、首を長くしながら待ちわびた夢がようやくかなった格好だ。コレクション全体の評価額は約265億円(当時)と高額だが、現在ではさらに高騰し、入手できない20世紀を代表する貴重な作品もあるという。ブラックキューブのシンプルな外観の美術館正面玄関で真っ先に迎えてくれたのは、ヤノベケンジのヘルメットを装着し、鮮やかな朱を纏った巨大な守り猫『SHIP'S CAT (Muse)』…記念にその雄姿をケイタイでパチリ!建物内部の構造は、1階から5階までが吹き抜けで、空間の複雑な造形美が魅力のひとつとなっている。展示室は4階・5階あわせて約3100平方メートルあり、天井高も6メートルとゆったりとした空間…大阪にまた新たな名所が誕生したという印象だ。

展示会場では開館記念「超コレクション展-99のものがり」が開かれていて、珠玉の館蔵コレクションが網羅されていた。特に印象的だったのは、吉原治良が先導した戦後日本を代表する芸術運動の一つ「具体美術協会」(通称:具体)の作品群が並ぶ漆黒の壁…通常日本では、美術館展示室の壁色は白かオフホワイトが多いなか、あえて黒色を使ったのは、理由があった。かつてこの中之島には、具体の活動拠点の展示施設『グライビネコテカ』が存在し、土蔵を改装したその壁色が黒かったといわれている。その記憶を引き継ぐ意味を込め、今回敢えて黒壁にした模様。

国内外の選りすぐりの貴重な作品群を鑑賞し、心が満たされたあとは空腹を満たそうと美術館を出て、手ごろな店を探すことに…目を付けたのは、飲食店が集結する『中之島フェスティバルタワープラザ』(地階)。入店したのは、オジサン達の郷愁を誘う絶滅危惧種の日本式洋食レストラン『キッチン・ジロー』。いまや営業しているのは、東京九段下店と大阪中之島の2店舗のみとなってしまった。この『ランチセット』は、ハンバーグや牡蠣フライ、クリームコロッケなど定番9種類のおかずから2種類を選び、ライスと豚汁が付いて千円ぽっきりとリーズナブル…さらに展覧会の入場証を見せれば、ワンドリンクサービスときた!



ヤノベケンジ  
『SHIP'S CAT (Muse)』  
2021年



ルネ・マグリット  
『レディ・メイドの花束』  
1957年



『ランチセット(エビフライ & メンチカツ)』  
2022年

## 文化団体 紹介 番外編

今回は、番外編として西村能舞台(上传馬町)で能の指導をされている宝生流能楽師シテ方の内藤飛能さんにお話を伺いました。

一 簡単に自己紹介をお願いします。

私は名古屋出身で、もともと尾張藩の素人役者の家を出で、曾祖父と祖父も能楽師でしたので、5歳から稽古をはじめ、自然とそのまま導かれるように東京芸術大学の邦楽科能楽専攻へと進学し、卒業後は宝生流家元の内弟子を9年務めました。家元に付き、それこそ寝食を共にし、公演に付き添い生活のすべてを能に捧げる生活でした。もちろん自分の自由な時間はほとんどありません(笑)。しかし、この9年間は本当に能楽師としての今の私を形作ったとても貴重な時間でした。

ですし少し敷居があるかもしれませんが、でも、迫力ある仕舞や美しい衣装、お囃子のリズムだけでも充分楽しめる要素が多くあるので、クラシック音楽を聴くような感覚で能を楽しむこともできると思います。

現代においては分かりやすく、感情を盛り上げるような舞台芸術はたくさんあります。お能のそういう部分を進化させていったのが歌舞伎とも言えます。家元もおっしゃっていますが、お能が勝負するのはそこではなく、観ることによって、むしろ心を穏やかに、そして鎮めてもらうという部分かもしれませんし、それこそ能が守りたい価値でもあります。

一 現在はどのような活動をされていますか?

その後、独立して東京を拠点にしておりますが、やはり出身地である愛知も活動の中心の一つとしてやっております。自主公演である「飛座」を2017年から始めるなど公演活動に力を入れるのはもちろんですが、能文化の継承のための普及啓発活動にも力を入れています。ご縁があって西村能舞台の再興を目指す西村さんと出会い、西村能舞台での能体験の講師をさせていただいておりますが、祖父も西村能舞台へおじゃまされたことがあったようだし、私も以前、吉田城新へ出演させていだいたこともあり、縁を感じる土地です。定期的に西村能舞台で「はじめてのお能体験」の講師をさせていただくとともに、この夏には「親子で能体験」の教室も開催させていただく予定です。

一 お稽古の際に大切にされていることはありますか?

やはり物語を楽しんでもらいたいという事があるので、体験してもらい謡いや仕舞について、その意味することを必ず伝えるようにしています。例えば、「もとより衆生済度の誓ひ」という文言があれば、現代語で「生きとし生けるものすべての命を救うことを約束するという意味ですよ」ときちんとお伝えして、体験する方が「ああ、この能ではこういうことを願っているんだな」と納得して体験できるようにしています。ぜひ、より多くの方に能の魅力を伝えていきたいと思えます。

西村能舞台での能体験講座の日程等は、裏面スケジュール表をご確認ください。

一 能は敷居の高さも少し感じます。

確かに能やその演目に対するだけの予備知識があったほうが、より理解できると思います。内容としては意外と昔の人も今の人も感覚は同じで共感できる部分は多いと思いますが、そこまで内容を理解し楽しめるようになるのには、勉強も必要





市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合せ先までご連絡ください。

※この予定表は予告なく変更する場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。

7月 イベントスケジュール表。1日(金) 第787回邦楽鑑賞会、3日(日) 茶道クラブ月例茶会、10日(日) はじめてのお茶体験、17日(日) 日曜短歌会、20日(水) 水曜短歌会、23日(土) ロックミュージカル『ロミオ&ジュリエット 復活篇』、30日(土) 第11回ファミリーコンサート、31日(日) Jazz Classic Duo No.2

8月 イベントスケジュール表。1日(月) 夏休み親子で伝統文化はじめてのお茶体験、5日(金) 第788回邦楽鑑賞会、6日(土) 峯島望美ソプラノリサイタル、7日(日) 令和4年度(創流116年)日本壮心流全国剣舞大会、11日(木・祝) 志多ら全国ツアー、13日(土) 豊橋ユースオーケストラ第23回定期演奏会、17日(水) 水曜短歌会、20日(土) 夏休み親子deコンサート、21日(日) 日曜短歌会、ガラコンサート

豊橋の文化活動—アーカイブス⑫

～気骨の文化人たちⅡ～

【文化人たちの青春の遍歴 その2】 「あいつがやってくると氷色に冷たくなる」(岩瀬正雄詩集「悲劇」より)

◎岩瀬正雄(明治40年1907～'03)とM.L.T、戦旗読者会、東三新人会、文化都市、(旧)豊橋文化協会

岩瀬正雄は、M.L.T、戦旗読者会、東三新人会、雑誌「文化都市」創刊、(旧)豊橋文化協会、第一及び二次豊橋文化協会のすべてに、深く関わった人物である。「豊橋日新聞」(大正6年2月、元新報記者の中村風声によって創刊)は参陽新報や新朝報と異なっており、政治記事より演劇と花柳界の記事を好んで取り上げた新聞であるが、一面を割いて「月曜文芸欄」を設け読者の文芸作品を掲載したことは他紙に類をみなかった。若かった頃の岩瀬正雄は己部静夫とともに常連の投稿者であり、豊橋地方の文学青年の登竜門的役割を果たしていた。正雄は昭和7年に処女詩集「悲劇」を刊行。元豊橋市社会教育課長、昭和47年「僕の文学史」一匹の黄金虫」を刊行し、第23回豊橋文化賞を受賞している。



岩瀬正雄

◎M.L.T(昭和3年6月)

アナキズムの全国的衰微と共に黒土社も自然消滅した。だが、交代すべきマルクス主義を指導精神とする文化運動が勃興した。M.L.T組織成立後であって、プロレタリア運動は自らの基本的組織の建設に忙殺されてきたと言つてよい。強いてこの間のプロ文化運動らしきものを挙げれば、加藤禮吉が名古屋新聞支局長丸地古城の協賛を得て、東京から安部磯雄、片山潜、布施辰治その他を招聘新川公德館で農民講座を開いた位のものである。

M.L.Tとは、マルクス、レーニン、トツキーのそれら頭文字をとって付けたところの言は「社会科学者研究会」である。当初これを作るに至つた事情は、早稲田を止め帰宅していた高崎信吉が、吉田元(小山三郎)、和田保一、小林榮等と交遊するに及んで、語学研究会を拵へ、フランス語を高崎が担当した。他方當時成立して間もない一般労働の尾原(与)吉、林道治、加藤禮吉等がフランクとして参加、漸時語学研究会から社会科学者研究会への色彩を濃くさせて行つた。M.L.Tの言は「創立總會」とも言ふべきは、尾原等が参加した後、青木屋の二階で持たれた。集まつた顔ぶれは高崎、尾原、吉田、小林の四人の外に、当時アナキストだった毛利豹介、山本和夫等十名あまり。議論の中心は此の集まりを文芸団体とするか、或いは社会科学者研究会とするか、に就いて二派に岐れ、その日はそれで散會した。次いで二週間後、今度は上野の吉田の下宿で會合を持ち、社会科学者研究会式のものとするに決定、その名もM.L.Tと付けたのである。M.L.Tの集まりは月二回及至三回程度持たれ、そこでは、尾原が中心になって、ロシア革命史、唯物史観と唯物辯證法、帝國主義論の講座を行つた。そして此の研究会も二十九年(昭和4年)には自然消滅となつてゐた。(文化都市)

☆昭和2年頃から研究され始め、岩瀬正雄も参加し、文芸団体とする議論もあった。M.L.Tの名称は尾原与吉などが参加した昭和3年6月創立總會後とされているが、翌年には自然消滅していった、というものであった。

◎戦旗読者会(昭和4年3月)

「戦旗」とは、昭和3年、共産主義運動撲滅の大檢舉「三・一五事件」を契機に発足した全日本無産者藝術聯盟(ナップ)の機関誌である。

戦旗読者会はM.L.Tの再建として吉田元の提唱により二十九年(昭和4年)3月尾原、和田、小林、毛利、高崎の外一般労働の同志小木曾信行等を主要メンバーとして成立した。創立總會は星食堂の二階で持たれ、名稱は戦旗読者会とはしたが、必ずしも「戦旗」の讀者に限定せず、且つ研究項目も種々雑多に亘つた。

第二回目の會合は3月30日夜、高崎の家で行はれた。ところがこの會合を持つに當り、大失敗をしてかした。後になつて分かつたことだが星食堂で創立會議の初回第二回會合の日時並に場所の打ち合わせを行つたところがその時、偶々豊橋署特高課の刑事が隣室に居合わせ、こつそり各人の言ふことを筆記してゐたのである。だから第二回の會合の日時場所等もすつかり漏れてゐたのは言ふまでもない。

愈々当日(昭和4年3月30日)となつた。そんなことは知らない讀者のメンバーたちは夜に入り會場である高崎の家に集り今後の社会科学者研究会のコースを定めたり、豫め定められた講座が終ろうとするところ、突然高崎のお母さんが「外に巡察らしいものがある」といふので、高崎の家を後にして、先づ当時小学校教員をしてゐた大塚某と初めて顔を見せた大塚の二人を二階にかくし、一同何食わぬ顔してぞろぞろ外へ出た。外ではしきりに雨が降つてゐた。

と・案の定、制私服の警官隊が一齋一行を取り巻き、一人々々そのまゝ豊橋署へ連行した。雨の降りしきる大手通り夜更け同勢十二名は度々泥濘にはまりこんだといふエピソードを残している。豊橋署へ検束された一同は階下の各部屋に一人々々に入れられて、漸時二階の特高室に呼ばれ取り調べを受けた。治安維持法に引つかかるには余りにも組織形態が整つてゐなかつた為、翌31日午前3時ごろ一先づ全部釈放されたのである。翌日になつて發行人と見られた吉田元(小山三郎)、杉浦(敏夫)の2名が再び呼び出され、前後の會合に参加してゐなかつた小林榮が二川からオートバイで豊橋に連れて來られるなど一時は警察側でも大騒ぎしたが、此の事件は戦旗読者会の潰滅ということに依つて、一段落を告げたのである。

その後、プロレタリア文化運動としてはその年の五月吉田元が左翼雑誌購讀會を計劃したりしたが物にならず、三一年(昭和6年)六月の東三新人會成立迄は何等の動きをも見せなかつたのである。(文化都市)

◆治安維持法(大正14年<1925>公布～昭和20年<1945>10月15日廃止)は、「国體の変革・私有財産の否認を目的とした結社を組織し、また事情を知りながらこれに加入したものは10年以下の懲役または禁錮刑に処する」など無政府・共産主義者を取り締まり対象とした。昭和3年には、田中義一内閣によって議会の議決を経ず「緊急勅令」という形で強引に改正が施行され、「死刑の適用」や「結社の目的の行為(目的遂行罪)」が新設され、以後、労働組合や文化的研究、宗教活動さえも適用対象とされて行つた。

【令和4年度 文化庁伝統文化親子教室事業】

煎茶道親子教室のご案内

売茶流東三河支部さんによる全6回の親子教室が開催されます。煎茶道は、急須で煎茶や玉露などを美味しくいれる作法を学ぶ茶道です。一緒に楽しく急須でお茶をいれませんか？

募集対象 ● 小学1年生から中学3年生
定員 ● 15名(先着順)
日程 ● 7月24日(日)、31日(日)、8月7日(日)、20日(土)、28日(日)、9月11日(日)
※いずれも午後1時30分～午後3時30分
参加費 ● 1,800円(6回分)
場所 ● 豊橋市三の丸会館
申込・問合せ ● 売茶流東三河支部(担当:岩瀬) TEL.090-8470-2822



文化短信
▼豊橋市民俳句会 第648回句会
雀の子三段とびの日向かな 佐藤英子
花刺戦を偲ぶ馬防柵 高橋良子
春の日のふらりと乗りし飯田線 加藤美津子
一瞥の駒の鏡や花散れ 大河美智子
離近く弥猛に鳴くや親雀 藤田和代
ポケットにさくら一輪野依の子 藤田源一
野薔にふと口遊む愛唱歌 鳥居節子
土弄り楽しむ母に雀の子 河合澄子

▼五月は吟行会を行いました。
北帰行はじむる白鳥よ気をつけろ目指すシベリアは布い所だ 洲淵智子
ウクライナ我が目を疑ふ映像に戦ひやめてとテレビに叫ぶ 中島タエ子
耳だけを貸してもっとも聞いてあげ 寺部水川
もっともすぎ返す言葉がありませぬ 戸沢はたる
あの人じあ然もありなんと笑い出す 池谷英子
付度も弁えている大人たち 本多雅子
もっとも聞いた話話も三三三 鈴木順子

▼五月は吟行会を行いました。
旅立ちの子に葉枝の風騒ぐ 大河美智子
子らを寄せ大道芸や薄暑良子 高橋良子
キャンパスのわつと膨る新緑光 佐藤英子
春宵足裏に返る息づく 鳥居節子
若菜風華山幽居の屋根瓦 加藤美津子
ふるりの空爆終へ鳥居節子 藤田源一
老鴛や山懐に住み古し 篠田和代
小綬鶏や姫街道の九十九折り 彦坂艶子
友を待つ初夏の三番ホー 河合澄子

▼豊橋文化短歌会「四月日曜短歌会」
雨上りデンデン虫がのろのろり身体ひとつの城背負いつつ 西郷賢谷
鋭角の鋭き三日月何思ふ感染者数今日も増えゆく 岩瀬正雄
今朝からの探し物また見つからずそれはさておき見届にゆく 岡田米子
カラオケのわたしの十八番は「飯田線」小沢あきこの透き通る声 河合美智子
三人の友とおしゃべり茶会して気力体力湧き出してきた 成瀬眞智子
傷つけて傷つきたる日の夕餉時その日の事は全くと忘れて 真造富久代
染みおほき平井真の「前線」ぞ転寝にせまる紙魚の隊列 丹羽智子
地の面に弾丸のごとき疾き影映して飛びぬる鳥たち 池田あつ子

▼五月旬会
最も凡夫どおしで馬が合う店長の手腕孤軍のチェイン店 立山ゆう子
悔いはない幸せと云う笑ひ顔 小田はるよ
辛口の進言がある明日がある 藤森ますみ
双方の正義まことにこつとも 佐藤英子
人生の先輩教えこつとも 藤森ますみ
もつともと言われたくないへソ曲がり 山口タカシ
まだ言うかもつともらしい言い訳を 波多野律子
頻りにこつともすす使われるもつともな話題ばかりで冷めていく 佐藤英子
耳だけを貸してもっとも聞いてあげ 寺部水川
もつともすぎ返す言葉がありませぬ 戸沢はたる
あの人じあ然もありなんと笑い出す 池谷英子
付度も弁えている大人たち 本多雅子
もつとも聞いた話話も三三三 鈴木順子